

川崎ジュニア文化大賞

光る川崎の未来

渡田小学校 5年生 中西 功樹

みなさんは、「川崎工場夜景」を見たことがありますか。ぼくは一年生の夏休みに初めて工場夜景の屋形船に乗りました。川崎区の七つの運河を、屋形船の二階がパイプで囲われているデッキになっている特別な船でめぐります。運河はうめ立地に沿ってあり、うめ立地には、鉄や石油化学工場があります。デッキに登ると、工場から出ている機械音や、においを感じることができます。ゲームでしか見たことのない光の世界が広がり、ぼくは一目で工場夜景が好きになり、母の古くなったデジカメを借りてたくさん写真をとりました。帰ってから、ペットボトルとねんどを使ってもけいも作りました。

ぼくの父も屋形船に乗って見られるせい鉄所で仕事をしています。昼間の工場見学にも行ったことがあるのですが、鉄を引き延ばす作業では、大きな音や、流れる鉄の熱気にととてもおどろきました。そして、父の仕事場は、そのせい鉄所の中でも高ろというとけた鉄に近い作業をしていると聞き、けがをしないか心配になりました。

父の働く工場もかっこいいと思うのですが、ぼくにはもう一つとても好きな工場があります。石油をきれいにする工場なのですが、その工場にある日本に一つしかないといわれている建物の形がととてもどく特で、ぼくには大きな茶色いうさぎに見えてかわいいのです。

そして、その建物の夜のすがたをぼくは工場夜景の中でもみなさんに知ってほしいのです。「フレキシコーカー」というこの建物に白い灯りがつくと、暗い運河の中にお城があるように見えます。

その後、一年に一度は屋形船に乗せてもらうようになり「工場夜景の持つ意味」が分かってきました。屋形船にはガイドさんがいて、説明をしてくれます。その中で印しよ的だったのが、「工場夜景の灯りは、目を楽しませるためのものではない」という言葉です。ぼくが美しいと思っていた灯りは、工場で仕事をする人の作業をしやすくするために必要な灯りで、かざりではなかったのです。がんばって仕事をしている人も、建物の外側や内側にある機械から出るじょう気も音も全てふくめて「工場夜景」のかっこよさ、美しさだとぼくは思います。

ぼくはしょう来この川崎のみ力を人に伝えて、川崎の町の美しさを守っていける、広めていける仕事がしたいです。そのためには、工場のエネルギーや設備が、さらに地球かんきょうにもやさしく、2020年に川崎市が選ばれたSDGs未来都市にふさわしいものになることが大事だと思います。ぼくが、川崎駅前のせいそう活動に参加したときに、町を歩く一人一人が、決められた所にごみを捨てるだけで町は

きれいになるし、とても気持ちがいいことを実感しました。一人にできることは小さなことかもしれませんが、地球かんきょうを守るためにも同じことが言えるのではないのでしょうか。

工場夜景の屋形船に乗れるのは小学生からです。この春、弟が小学生になり一しょに乗れる年になりました。二年前に小学生になった妹は一しょに屋形船に乗った後、工場夜景の絵をかいていました。空の色と海の色が夜なので差をつけるのがとてもむずかしそうでした。弟が工場夜景をどう感じて、何を作るのかとても楽しみです。そして、弟と工場夜景の話がしたいです。

ぼくの守りたい川崎の工場夜景をはじめとする美しさがいつまでも続いてほしいと思います。